

PRISM 審査会における各対象施策の評価結果について

令和 2 年 1 月 2 9 日

PRISM 審査会 決定

PRISM 審査会において、AI 技術領域及び建設・インフラ/防災・減災領域の継続する16対象施策について1月15日、17日に研究開発の内容、研究成果等を各省 PD より説明を聴取し、審査を行い、5段階(A、A-、B+、B、C)での総合評価を行った。

PRISM は、民間研究開発投資誘発効果の高い領域又は財政支出の効率化に資する領域への各府省庁施策への誘導を目指すものであり、各評価項目について以下の視点で審査を行った。①PRISM 施策の成果については、今年度の設定目標に対する達成度を表すものであり、国費投入に対する費用対効果の観点からも最重視した。②PRISM 制度目的との整合性については、民間研究開発投資誘発効果又は財政支出の効率化が期待できるかどうかという視点、③研究開発の拡大・加速については、アドオン予算により、実施件数、対象範囲の拡大や加速、計画の前倒し等がなされているかという視点であり、PRISM 施策を実施する上で基本的な視点である。④民間からの貢献(マッチングファンド)については、今後、民間研究開発投資誘発効果の呼び水として、事業の進展に伴い、さらに民間投資を引き出すことが必要であり、マッチングファンドの獲得状況を評価するため、①に次いで重視した視点である。2019 年度の実績をベースに、2020 年度の予定を加味している。⑤政策転換については、PRISM によりイノベーション転換をはじめ、基準策定・制度変更など各府省庁の政策を大きく変換させることができるという視点で評価を行った。

また、この評価基準のほか、国研・大学における寄与度、成果見込み、元施策の予算の状況、執行状況なども聴取を行ったところ。

これら5つの個別評価項目の評価を勘案し、別添のように、各施策を5段階の総合評価とし決定している。

以上

PRISM 審査会における各対象施策の評価結果

《AI技術領域》

対象施策名	評価結果(総合評価)
新薬創出を加速する症例データベースの構築・拡充 創薬ターゲット推定アルゴリズムの開発	B
AIを活用した大規模施設生産・育種等のスマート化	B
農畜産向けにおいセンサ及びモイスチャーセンサの開発	A
交通信号機を活用した5G ネットワークの整備に向けた調査検討 5G ネットワークの構築に交通信号機を活用するための調査研究	A

《建設・インフラ/防災・減災領域》

対象施策名	評価結果(総合評価)
i-Construction の推進 ・【データ基盤】「インフラ・データプラットフォーム」構築 ・【調査・測量・設計】レーザー測量の高度化、施工維持管理まで使用可能な 3D 設計システム開発 ・【施工・監督検査】無人工事現場実現に向けた建機の自動制御・群制御、施工データの 3D 化及び同データに基づく検査技術開発	A
効率的かつ効果的なインフラ維持管理・更新の実現	B
【維持管理】インフラデータの AI 解析による要補修箇所の早期検知・原因分析・補修に係る研究開発	A-
長周期地震動・詳細震度分布等解析及び同解析結果に基づく応急対応促進	A
竜巻等の自動検知・進路予測システム開発	A
ほ場の保水機能を活用した洪水防止システム開発	A-
気象・水位情報等の提供による応急対応促進	A-
森林地崩壊予測システム開発	A
仮設・復興住宅の早期整備による応急対応促進	B+
L アラートを活用した自治体・ライフライン情報の連携	A-

＜総合評価基準＞

- A：想定以上の成果が得られるなど非常に高く評価できることから、推進費の配分の増額又は要求通り認めるべき。
- A-：当初の予定どおりの成果が得られており、マッチングファンドも同額以上に見込まれることから、推進費の配分は前年度と同額とすべき。ただし、特段の理由がある場合には前年度比10%までの増額を認める。
- B+：当初の予定どおりの成果が得られており、マッチングファンドも適切であるが、より事業実施の効率性を高める必要があり、要求額又は前年度比10%以上の減額とすべき。
- B：来年度も一定の成果は期待できるが見直しが必要であり、前年度比25%以上の減額とすべき。
- C：来年度成果が得られるか懸念があるため、中止すべき。